

749

特254

568

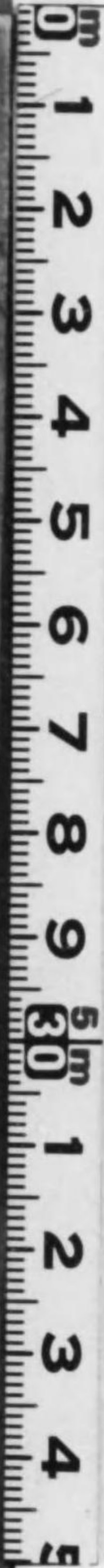
十三年四月十一日

勝田貞次氏講演

インフレーションの  
程度と我財界

岐阜経済會

始





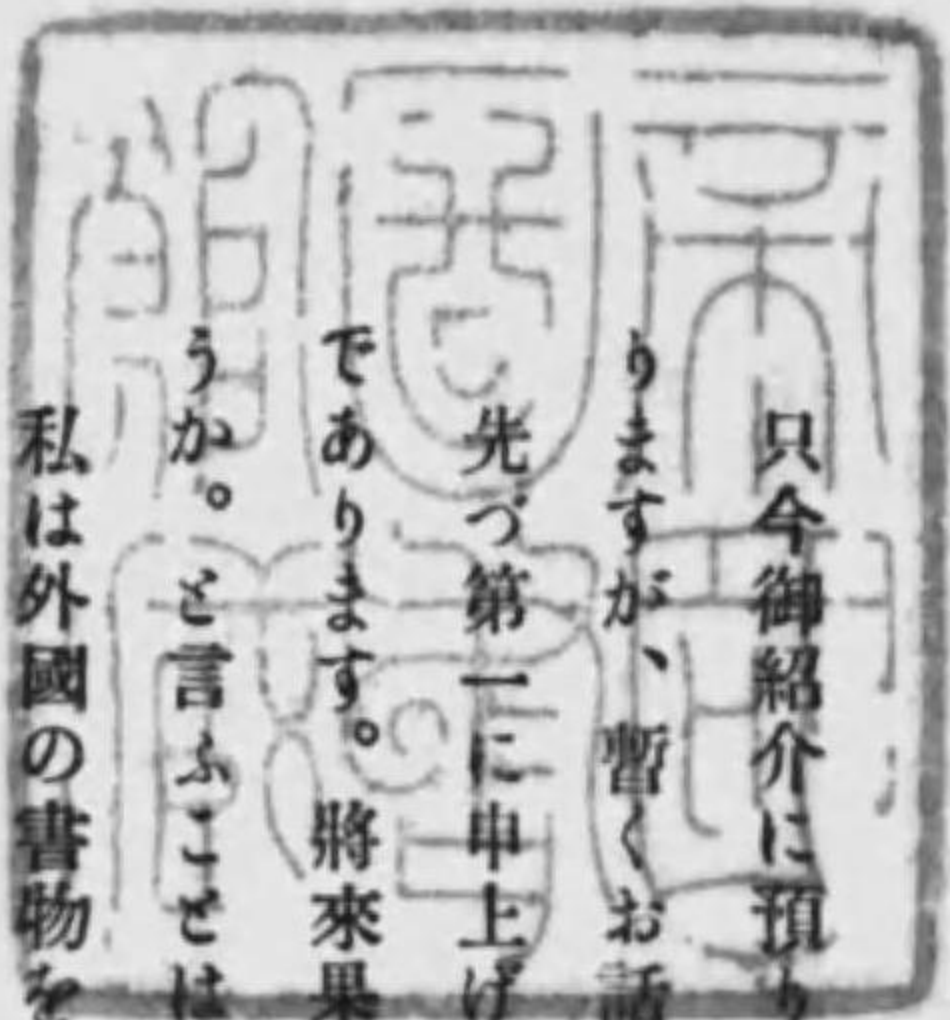
特 254  
568



# インフレーションの程度と財界

(文責在記者)

景氣研究所長 勝田貞次



只今御紹介に預りました勝田であります。今回お招きに預りまして厚く御禮申し上げます。未熟であります。暫くお話をさせて頂きます。

先づ第一に申上げたいのは、世界の情勢であります。御承知の通り今日の世界は非常に騒々しいのであります。將來果して何うなるであらう。大きな戦争が起つて来るか、或はこの儘で治まるであらうか。と言ふことは何方の頭にも浮ぶことと思ひます。

私は外國の書物を読み、いろいろ研究してゐますが、私の研究するところに依りますと、必ず將來に於て、第二次の世界大戦争が起る可能性が充分にある。と言ふことに歸着するのであります。何故に左様なことを申すかと申しますと、これは英國が遂に動かなければならぬ。と言ふところに原因するのであります。この前ドイツが世界大戦争を起した時に、ドイツは、決して英國は動かないと言ふ見



込の下にやつたのであります。ところが動かぬと思つた英國が動いたのであります。其の爲に大戰争になつたのであります。この間ムツソリーニがエチオピアを占領する時に、ムツソリーニは二三日間山に立籠つて非常に研究した結果、英國は出て来ない。と言ふことを見極めたのでエチオピア侵略を始めたのであります。ムツソリーニがあれをやるのには、ピストルと毒薬をポケットに入れてやつたと言はれてゐます。ドイツに於ても、イタリアに於ても、今日事を構へるのには、必ず英國が出ないと言ふことを見透してからやるのであります。日本が日清戦争をやり出す前に、先づロシアを突いて見て、ロシアが出ないことが判つたので敢然戦争を始めた。これと同じことでもあります。其の英國が果して出るか何うか、現在の英國では出ることは今日非常に困難な状態にあるのであります。英國は老大國で組織が非常に嚴重であつて、國內に於て戦争に對する反對の輿論が非常に多い爲に、英國は却々動かないのであります。御承知の通り今度外相が變つたのでも分るやうに、最近の英國の情勢は、幾分戦争と言ふ方向に傾きつゝあるのであります。若しも英國がこの儘で永久に動かぬなれば戦争は起らないけれども、さうすれば英國自體は非常に弱體になるのであります。ダグレーと言ふ人は、英國は我慢するだけは我慢するが、遂に我慢出来ない時が来るに相違ない。と言つてゐるのであります。現在英國は、日本は支那をやつつける。イタリアは地中海方面に勢力を張る。ドイツはオースタリーやチエツコスロバキヤ方面に侵略する結果遂に我慢出来ない時が来るのであります。何う

しても英國は動かなければならぬ。と言ふところに、世界第二次大戦争の原因があるのであります。そこで差當つて大きな問題は、チエツコスロバキヤ問題でありまして、ドイツは恐らく、チエツコに進出するであらう。と言ふのであります。チエツコは非常に原料が豊富であり且つ重工業が發達して居りまして、このチエツコを取ることに依つてドイツの力は非常に大きなものとなるのであります。而も其の大きくなつたドイツが何う言ふことをするかと言ふと、最近ある雑誌に面白いことが書いてあつたのであります。つまり、ドイツやイタリアのやうな獨裁國に於ては絶えず戦争をしなければ獨裁と言ふものが維持出来ないのであります。従つてヒットラーやムツソリーニは絶えず戦争することを考へてゐる。戦争する事に依つて自分の獨裁を繼續させるのである。戦争が無くなれば獨裁は無くなるのであります。これはナポレオンの場合と同じことでもあります。チエツコを取れば今度は更に他の地方に進出するのであります。ドイツやイタリアは戦争をすることに依つて強くなり大きくなるのであります。さうして其の進出に於て止まるどころを知らないのであります。それに對して英國が何時までも我慢して見てゐることは出来ません。其の戦争に英國が動かなければならぬ。さうすれば戦争が起る。其の責任は勿論英國が負ふ譯でなくドイツか或はイタリアの負ふべきものであります。今は英國、米國も手を出さずに見てゐるが、それには一定の限度がある。と言ふことが、今度の世界戦争の起る大きな原因であります。



それではドイツやイタリイが分を守つて居れば良いが、然し獨裁國では、分を守ることが出来ない  
 のであります。現在ドイツの國情を調べて見て、なる程これではヒットラーは、戦争をしなければや  
 つて行けない。ドイツの經濟力の大半は皆この武力になつてゐるのであります。それで各自の生活と  
 言ふものは、非常に壓迫されてゐる。これをドイツの人々は、パターホアガンエーレント「銃を作  
 る爲には吾々の生活を犠牲にせよ」と言ふことを言つてゐます。戦争をしないと銃が錆びてしまふ。  
 それでは國民生活は益々逼迫するのであります。現にそこを漫畫に書いたものがあります。銃が棚の  
 上に一パイ積んである。其の下に榮養不良の國民がウヨ／＼してゐる。これは非常に獨裁國の眞情を  
 穿つてゐるのであります。日本では今ドイツの國民の生活状態は良いと見てゐますが。全部武力の方  
 に向けられてゐるのであります。さういふ國柄が一體戦争をしないで済むであらうか。戦争をしない  
 ならば、徒に生活が逼迫するばかりであります。さうして戦争をしないと、ヒットラー、ムツソリー  
 ニの立場が悪くなるのであります。そこで彼等は自分の立場を良くする爲にも戦争を續けるのであり  
 ます。そうして世界的に大きな戦争の起る前には何うしても世界が二つの分野に對立するのでありま  
 す。そこに始めて戦争が起つて来る。それまでは世界の状態は戰國時代となつてゐるのであります。  
 世界戦争と戰國時代と言ふものを考へなければならぬ。日本でも戰國時代の後に關ヶ原の大合戦とな  
 つたのであります。關ヶ原の合戦迄には實に各所に無數の大名があつて戰國時代をなしてゐる。これ

が段々投合して遂に大きな對立が出来る。さうして大きな合戦となるのであります。こゝ四五年間と  
 言ふものは戦争が頻りに方々で行はれてゐます。それが行はれてゐる間に國と國との連結が出来る。  
 英國と米國とフランスが結合する。それにロシアがつく、片方は日本とイタリイとドイツとが結合す  
 る。こゝに大きな對立が出来るのであります。だからしてこゝ數ヶ年間は世界的の戰國時代でありま  
 す。戰國時代と世界大戦争とを區別しなければならぬ。世界戦争も戰國時代も同じやうに考へる方が  
 ありますが、これは全く別々のものであります。さう言ふ譯で、私は、こゝ當分は戰國時代が續く。  
 其の最後に於て一つの大きな大合戦が起つて来る。それが世界戦争になるのだと思ひます。

それからもう一つこの漫畫に依つて説明すると更にハッキリすると思ひます。こゝに斯う言ふ漫畫  
 があります。(畫示)例へばドイツがチェッコを取らねばならぬ。と言ふことは分り切つてゐますが、  
 この上の方の黒いものがドイツであります。ドイツがチェッコを今當に喰はんとする光景でありま  
 す。下はチェッコが魚になつてゐます。この魚を針で刺してゐるのであります。これを御覽になりま  
 すと能く分ります。更に世界戦争の前提として、米國が乗出せば必ず戦争になるのであります。一方  
 は獨裁、一方はデモクラシーであります。デモクラシーと獨裁の對立の結果は戦争になる。どにか  
 この漫畫を御覽になりまして、地球上のデモクラシーと獨裁の對立した時には世界戦争になるので  
 あります。もう一つ何うしても世界戦争が起らねばならぬ理由がある。平和は戦争といふものがなく



ては求め得ない。又平和が長く続きますと必ず戦争が起つて来る。何故平和と戦争と關係があるかと言ふと、平和が長く続きますと、つまり金を持つてゐるものが金の上に眠つてしまふといふやうなものになります。金持の子供に道樂者が多い。そこで持つてゐる金が有効に使はれないのであります。有効に働かないからして他の者が困る。そこでそれを出させて有効に使つてやらう。と言ふことになつてゐる。現在地球上に於て、英國の持つてゐるもの、フランスの持つてゐるもの、米國、ロシアの持つてゐるものを、日本やドイツやイタリアが有効に使はうといふのである。さうでなければ地球上の平和が保たれないと言ふことになる。世界の今日の資源の分布状態を見ますと、ロシアと米國と英國とで殆んど世界資源の七割以上を持つてゐて、日本、イタリア、ドイツ其他全部の國は三割足らずの資源に依つて生活してゐるのであります。そこで英國、米國等が資源を有効に働かせてゐるか何うかといふに、決して有効に働かせてゐないのであります。これを有効に働かせば、英國米國は生産過剰になります。一方日本やイタリアやドイツは原料が足らなくて困つてゐるのであります。英國や米國、ロシアは原料が多過ぎて困つてゐる。斯んな矛盾したことが有り得ることであらうか。これが、金持が運用の出来ない程のものを持つて眠つてゐるのは怪しからぬと言ふものであります。つまりこれを持つてゐる國と持たない國、と言つてゐるのであります。只これを慢然と持つてゐるものと持つてゐないものと解釋するだけでは分らない。持つてゐる國といふのは持ち過ぎて何うすることも

出来ないのをいふのであります。經濟關係から見ても、英國と米國は現在生産が過剰で困つてゐる。それで最近の米國あたりの景氣指數を見ても非常に悪くなつてゐる。激落してゐる。例へば米國は去年の秋から景氣が非常に悪くなつてゐるのであります。ところが日本は少しも悪くなりません。ドイツもイタリアも悪くなつてゐません。これは日本もドイツもイタリアも生産が不足だから物價が下落しないのであります。不足だから一方の持過ぎてゐるところから取つて來れば良いのであります。其の爲に今支那に兵を出してゐるのであります。ドイツだつてオースタリヤを取れば更にチエツコを貰ふイタリアも貰ひたいからして兵を出してゐるのであります。英國、米國にしてこれを黙つて見てゐることは出来ない。結局兵を出してこれを防ぐのであります。従つてこの状態に於ては戦争なくして平和を見ることは出来ないであります。この世智辛い人類社會に於て人と喧嘩をしないで他人の物を取ることは出来ないであります。何うしても世界戦争が起らなければならぬと言ふ、この理由に依つて私は第二次世界戦争の可能性を信する者であります。さう言ふ譯で、當分小形の戦争が世界的に續く。地球の彼方此方に小形の戦争が起る。さうしてそれが結局世界大戦争になるものである。其の覺悟を日本として充分持たなければならぬのであります。これを根本の前提として、これから皆様にお話申上げたいのであります。

つまりこのことは、言ふ迄もなく日本の軍部當局は非常に能く理解されてゐるのであります。其の



觀念からして何とかしなければならぬ。そこで日本は軍備をウンを強化する。さうして今支那事變を起してゐるが、これも次の世界戦争の時に負けないやうにするには何としてもうまく始末をつけて置かねばならぬ。それには何うしても日本の財政を膨脹させねばならぬのであります。皆様の中には財政膨脹を心配される方があるかも知れませんが、私は、日本の財政はまだ大きく膨脹すると思ひます。これを比率にして考へても、日本の財政の膨脹と言ふものは、國民經濟力から見てもまださう大きいものではないのであります。ドイツは戦時中國國民所得の四倍の財政をやつたのであります。今日の日本の財政七十億と見て、國民所得が百五十億圓と言はれてゐるからして其の半分であります。けれどもこれは近き將來一應は百億位にならなければやつて行かれないのであります。これを長く維持するか何うかは其の時の情勢に依ります。一時は百億になつても又後に六十億か五十億位になるかも知れませんが、少くとも、日本の財政が十八億とか二十億とか言ふやうなことはもう過去のこと、今後には豫想出来ないことでもあります。恐らくこゝ五六年後には何んなに節約しても日本の財政は五十億以下では出来ないであります。さうしてこの財政を平均して五十億と假定しますと、其の結果は何うなるであらうか。これは大に研究しなければならぬのであります。公債の問題、インフレーションの問題、通貨の問題、景氣の問題、凡ての上に大きな問題となつて來ます。日本の經濟問題を決するものは、財政の問題、さうして武力と經濟力との平均の問題であります。去年の暮から今年に

かけて私は北支へ行つて王克敏といろ／＼話したのであります。あの人は朗かな人ではありますが、非常に話の能く分る人であります。其の人がハッキリ言はれたのに驚いたのであります。「日本は武力で以てやれるから偉い。ところが武力と言ふものはこれが如何に進んでも經濟力が伴はないならば駄目だ。少くとも支那では受け容れられない。」先生はさう言つてゐました。米國は病院を建て、やる。學校を建て、やる。と言ふやうに文化的指導でやる。けれども日本は支那を叩き付けるだけである。武力で以て壓へ付けるだけであつて經濟力が伴はないから次から次に問題が起るのである。これは過去の問題ではない。今後に於てもさう言ふ傾向が考へられるのであります。武力と經濟力が一致しなければならぬ。米國と英國はこれが一致してゐる。けれども日本は武力だけは素晴らしいものだ。戦争には勝つけれども經濟力が不足してゐる。と言ふところが大きな問題である。これでは日本が戦争に勝つても勝つたにならない。戦争後の効果を收めることが非常に困難であらう。と言つてゐたのであります。それでさう言ふことはいろ／＼の問題になつてゐるのであります。つまり武力は認めるが經濟力は認めない。日本は經濟力でへたばりはしないだらうか。日本は朝鮮を併合した。けれども三十年後の今日始めて經濟力に依つて完成を見たのである。又滿洲を取つたが五年後の今日、まだ日本のものに少しもなつてゐないではないか。今度支那を武力で取つても其の後の始末を何うするか。と言ふのであります。私は歸つて來てから、今取つてゐる支那の土地はあまり大きすぎるから北支だけ



を守つて中支南支を後にしたら何うかと言ふことを當局に進言したのでありますが、これは非常に重大問題であります。だから後始末がうまく出来ないと、折角大きな犠牲を拂つても何の得るところもないことになる。新しい政府が出来ても一つ裏を返すと一轉して排日政府とならないとも限らないのであります。さうすると又戦争のやり直しと言ふことになると言ふことを心配するのであります。こゝに外國の漫畫が澤山あります。これを御覽になつても能く分りますが、これは日本を蛙に譬へてゐるのであります。エキスパーション、膨脹蛙、この日本蛙がだん／＼膨れて行つて遂にパンクして潰れてしまふと言ふ畫であります。大きくなるのも良いが、無茶苦茶に大きくなると始末が付かなくなるぞ。と言ふのであります。それからこの畫はやはり日本の軍人が蝶々を追つかけてゐます。これは夢を追つてゐるのであります。其の夢を追つて軍人さんに引つ張られて行くものが政治家である更にこれに引つ張られて行くものがどうも此の繪は久原さんのやうです。それからこれは日本の青年將校に政府が引づられて行く畫であります。この青年將校は橋本欣五郎だと言つてゐます。これは發賣禁止になつたのであります。そこで斯う言ふやうに武力と經濟力の問題、これは非常に重大な問題ではないかと考へます。そこで問題になるのは、財政が膨脹しても、將來日本の經濟力が段々大きくなつて行く、然し財政の膨脹に伴つて經濟力の増大が一致するなれば構はないのでありますが、財政だけが膨脹して、經濟力が増大しないで進むか何うかが問題であります。能くこの財政の膨脹だけを

問題にしますけれども、財政の膨脹も問題にする價値はありますが、例へば赤字公債を問題にする價値はありますが、これで何をやらうが五六年後に辻褄を合せて來れば差支ないのであります。何んなやり繰りしても良いが、五年後にバランスが取れてうまくこれの結末が付けば良いのであります。果して日本がそれをうまくやるか何うかと言ふのであります。若し五六年後にこれのやり繰りがうまく行かない場合には悪性インフレーションになるのであります。能く人々は、公債をあんなに澤山出すが、あれは危険だと言ふやうに考へられますが、公債を幾ら出しても、公債それ自體は問題ではないのであります。赤字公債を澤山出します。日本銀行が十億の公債を抱き込みます。十億の金が政府へ來る。政府が十億の金を使ふ。さうすれば其の金が民間に出てそれが貯蓄となり又政府へ戻つて來る。而も其の時は十億以上となつて戻つて來るのであります。去年の今頃日本銀行は六億位の公債を抱き込んでゐたのであります。今日では十億以上を抱込んでゐます。兌換券は去年は十四五億であります。今日では十七八億であります。公債も多いが兌換券も多い。銀行預金も十五六億圓殖えてゐます。だからして通貨が五億出た場合に、銀行預金は十五六億圓殖えます。通貨の三倍も銀行預金は殖えます。通貨が一つ出ると其の信用は三つ位殖えます。通貨が出れば信用が増大して來るかから預金が多くなるのであります。だから日本銀行が公債を抱込んでうまくやつて行けば赤字公債はどれだけ出ても構はないのであります。然しながら斯う言ふ問題が起つて來ます。政府はドン／＼金を



使ふ。金を使ふと言ふことは消費することである。だから物が減ります。金は殖える。信用を膨脹させるからして預金が多くなる。市場の流動力を増して來ます。ところが物が少なくなつて信用だけが膨脹して來ると物價が騰貴する。これは當然のことです。昭和七八年には皆がインフレーションが來ると言つて騒いだことがあります。ところが何も來なかつた。あの時はバニツクの後で物が有餘つて困つてゐた時であります。物が澤山あるからして、買つてゐるものは少し値が出れば賣り抜けるからして直ぐ下るのであります。ところが物を使つて行くのに赤字公債を發行します。市場の信用を膨脹させて預金を殖します。さうして赤字公債を溶せることをやつて行きますと、物資が遂に不足して來るのであります。そこで物價が騰るのであります。インフレーションとは何であるかと言ふと、これは通貨膨脹の結果から起るのではないので物の不足から起るのであります。物が澤山あれば決して起らぬのであります。政府が通貨を出して物を消費する。ドン／＼消費するから供給が追はれて來る。物資が拂底して來る。さうなると、幾ら統制しても何うしても騰つて來ます。無いものは騰るのが當然であります。これが段々詰つて來ると、國民が考へ出す「斯う物價が上つては銀行預金は何にもならぬ。これは預金よりも物を買はねばならぬ」と言ふやうになつて來る。そこで公債が賣れなくなる。遂に悪性インフレーションの傾向が出て來ます。過去の状態を見ますと、日本は財政の膨脹と通貨とが非常に能く一致してゐるのであります。明治三十一年から今日に至る間日本の財政の支出と

通貨の發行高がうまく行つてゐます。明治三十一年から四十年ごろの間、あの時代に於ては恰度財政が二億一千万圓の時に兌換券が一億八千万圓、財政が二億八千万圓の時に兌換券が二億二千万圓、財政が六億の時に兌換券が四億どうまく一致してゐます。さうして景氣の良くなる時には兌換券が多くなるのであります。大正七八年の好況時代に財政は十四億であつて兌換券が十八億になつたのであります。外國の例を見るとこの點ハッキリしてゐるのであります。英國は一九三一年に於て財政歳出七億七千万ポンドに對して通貨が四億八千万ポンドであります。米國は歳出が四十億ドルに對し通貨が四十八億ドル、ドイツは歳出が七十一億マルクに對して通貨が六十一億マルクであります。日本は財政十四億に對し兌換券發行高が十四億圓であります。この財政の膨脹と通貨の發行高とは大體一致してゐるものであります。日本あたりは過去の状態からして、財政が五十億圓になれば、通貨も五十億になつて良いのであります。現在では、通貨は十七億から十八億であります。たゞ財政の膨脹しつ放して經濟力が之に伴はないことが心配であります。そこで經濟力とは一體何であるかと言ふと、經濟力とは結局一國の生産力であります。生産力とは工業の力であります。で工業が發展しなければならぬ。だからして今は商業よりも工業の發達が必要であります。工業が發達して生産力が充實しなければ日本の經濟力は發達しないのであります。従つて財政の膨脹に一致することは出來ないと言ふことになつてゐるのであります。ところが工業と言ふものは原料に依つて制限される。例へばこゝにスチール



(鐵工)工場がある。如何に設備が整つてゐても原料がなければ何も出来ないであります。日本が若しも原料を十分に工場に與へることが出来ないといふと日本の工業力は伸びないのであります。大藏大臣でも今日日本に取つて大切なものは工業力であるからして、工業力を充實せよと言つてゐるのであります。現在鐵が非常に多く要るからして非常に値段が高い。ドイツの如く紙で以てレールを作る。と言ふところまで行けば良いが、普通の場合、重工業が発達すると、一方の部門に於て原料が押へ付けられるのではないかと思ひます。今日日本の會社の増資が減つて來た。會社は増資をしても擴張することが出来ない。何故擴張することが出来ないか。この前帝國高壓が擴張しようとしたが、政府が鐵筋コンクリートの建築を許さないと來た。鐵筋コンクリートでないと言ふ工場は爆發の恐れがあるので非常に困る。そこで擴張は出来ない。拂込は徴收しても金の使ひ道がないのであります。これなんか原料不足の爲に阻止されてゐるのであります。斯う言ふ會社が随分あります。この結果が段々ひどくなつて來ると、英國や米國では生産過剰で困つてゐる。此方は生産不足で困つてゐる。これが非常に心配であります。インフレーションは財政の膨脹から起るのではない。經濟力の發達しないところから起るのであります。

更に進んで斯う言うことを刺戟する材料があります。日本に於ける貿易が段々悪くなつて來ることあります。日本に於ける輸出貿易が悪くなつて來る理由は、今迄日本の輸出貿易は、非常に記録的

な増大を示してゐたのであります。ところが今後は世界的にブロック經濟であるからして輸出貿易は減る。今迄は入超と言ふものがそこに出來たのであります。今後は管理されて、入超を許さないから外國から買ふものを統制される。輸出が減れば輸入も減ります。そこで原料が足らなくなつて來るのであります。昔は輸出貿易が悪くなると入超になつて、海外支拂の關係から金融の梗塞を來したのであります。今後は金融の梗塞を來さない代りに原料不足から悪性インフレーションに拍車をかけるのであります。従つて輸出貿易の萎縮は取りも直さず悪性インフレーションを刺戟する材料になるのであります。何れにせよ今後日本に於ては物價は段々騰貴する傾向にあるのであります。ところが物價が騰貴すれば景氣が良くなるか。と言ふやうにお考へになるかも知れませんがこの點非常に違ひます。大正七八年頃の物價騰貴は、あの時は物價が割騰貴する其の前に一般生活の收入が五割も六割も増加したのであります。だからして好景氣であつたのであります。従つてインフレーションではなかつたのであります。ところが今日では、物價が上る反面には原料が不足する。其の爲に繰業が出來ない。短縮される。現に毛織物、綿織物工業は原料不足で繰短をやつてゐる。従つて収益は減少されるのであります。生産力の減少であります。

これが好景氣とインフレーションの違ふところであります。能く好景氣とインフレーションと混同する方がありますが、一口に言へば、インフレーションとは物價がドン／＼騰つて行つてしまふこと



で、好景氣とは儲かつて／＼仕方がないので皆んなが使ふ。だから物價が付いて上るのであります。こゝに好景氣とインフレーションとの違ひがあります。現在儲かるやうな顔をしてゐても、あの機械工業も結局儲からない。鐵の値段が上つて、注文を受けても原料がない。仕事が出来ない。ステープルファイバーもバルブが不足で仕事が出来ない。物は足らないから騰貴して行く。知らぬ間に損をしてゐるのであります。これが悪性インフレーションの實相であります。そしてインフレーションがひどくなるどデコボコ景氣になります。物の不足してゐる方は火の消えたやうなものになるが、さうでない方は景氣が良い。これもインフレーションの副産物であります。現在でも少しづつこのデコボコが現はれてゐるのであります。其の向ふところは、當然ヒットラーが叫んでゐるやうな、バターを節約して武力の充實を圖りなさい……さうして軍需工業は發達するけれども平和産業は壓迫されるのであります。さうして、日本の景氣と言ふものは、従來國民經濟を中心に出來てゐたものが何時の間にか國家を中心とした經濟になつて來ました。そこで經濟界に於て今迄巾を利かして居つた者は、主として銀行家等でありますが、これが巾が利かなくなつて來ます。其の代り國家主義の實業家が巾を利かすのであります。現に日産の鮎川さんなんか非常に巾を利かしてゐるのであります。

さう言ふ譯で、日本の經濟界は自由經濟の時代から國家主義經濟に行かなければならぬのであります。今當に其の道を行きつゝ、あるのであります。今後鮎川さんのやうな事業家、經濟家が出るのであ

ります。皆様が今後成功しようと思はれるならば鮎川さんのやうにしなければなりません。ドイツは重工業は凡て半官半民じやつてゐます。これは武力を充實させる爲に經濟力の足らないものを無理に其の方へ振り向けるのであります。バターホアガンエーゼント、この言葉は味はふど却々面白いのです。國家主義經濟でなければ飯が食へない。これがひどくなればさう言ふことになります。能く「己れの商賣は今不況でも五六年経てば又浮ぶ時が來やう」と言ふ人がありますが、私は、そんなことは駄目だと思ひます。そんな氣でやつてゐたらこれからは消えてなくなつてしまひます。然しこれをそんならと言つて轉向することは却々困難であります。だからこそ明治維新の時には商人が榮えて武士階級が亡びたのであります。甚だ遺憾であるけれども轉向出来なければ亡びるより仕方がないのであります。今度のデコボコには新陳代謝が含まれてゐるのであります。つまりこの環境の變化する時にはこれに順應して行かないとひどい目に遭ふのであります。日本は今大きな變化に臨んでゐる時であります。

それから問題になるのは、日本の政治の情勢であります。これも重大な問題であつて、人に依ると統制が行はれると物價は上らないと言ふのでありますが、これは非常な間違ひでありまして、統制に依つて上らないものは、金利とか株券とか公債、これなどは確かに安定します。爲替相場が安定するといふのは、爲替手形は個人の所有が禁止されてゐるからであります。これでも個人の所有を許せば



安定しません。銀行は半官半民的のものであるからして政府の命令一つで何うにでもなります。公社債も其の銀行が扱つてゐるからして政府の命令が利くのであります。株券でも配當を制限され、更に進んで現在人氣で動いてゐる新東の如きものも上場禁止をしてしまふといふ様なことになる。ドイツでは株の清算取引を禁止してしまつてゐます。現物は許すけれども清算取引は許さないのであります。米國でも空賣は禁止されてゐます。さうすれば株券も買買が少いから不常な値動きがないのであります。配當は取れるけれども値巾の儲けがなくなります。只だ増資される時だけは新株の権利だけ取れるが株の思惑成金になることは出来ないであります。さう言ふやうにして金利も動かぬ。公社債も動かぬ。けれども物價は動く。ところで日本は物の所有を禁止して居りません。物を所有してはいけないとすれば共産主義であります。これはロシアだけであります。物の私有を許してゐる限りは物の値段を統制することは實際に於て出来ないであります。政府が公定價額を作るとしても、物が足らない場合には、其の價額より高く賣買されるのであります。これは當然のことでもあります。従つて日本に於ては物の私有は禁止出来ないから物價は騰るでせう。若しそれを押へやうとするならば物を充分供給せねばならぬ。物を不足させて置いて賣買する人を虐めてもそれは無理です。そこで悪性インフレーションが起ると誰もが損をします。只だ損の程度が大きいか少いかだけであります。それから日本のこの政治形態は一種特別のものでありまして、所謂ファッショ化したと言ふけれど

も、そんならファッショの本であるイタリアは何うなつてゐるかと言ふと、あのムッソリーニと言ふ男は、御承知の通り大戦後イタリアは非常に衰へた。各工場でストライキを起した時に、初め労働者の味方をしてそれを止めやうとしたが、却々ムッソリーニの言ふことを聴かなかつた。それを資本家が見付けて「此方の用心棒になつて呉れ」と言ふことで、ムッソリーニは資本家の用心棒になつたのであります。ムッソリーニが政權を取つて以來イタリアの中産階級は没落した。ドイツはこのイタリアの真似をしたのであります。同じく中産階級が没落したのであります。で言ひ換へればファッショは大資本家の用心棒とも見られる。要するに表面では威張つてゐるが背後には大事業家に押されてゐるのであります。これがファッシズムであります。ファッシズムと言ふものは人物が中心になつてゐる。中心人物のないものはないのであります。ヒットラーが中心でありムッソリーニが其の中心人物であります。所が日本は上に天皇陛下を戴いてゐます。政治形態が他の國とは全然違つてゐます。ファッショ化したといつても日本のファッショは制度の上では出来ません。只だ組織の上だけのファッショであります。中心人物のない無責任なファッショであります。軍部ファッショと言つたつてそんなら軍部の誰が中心であるか、中心人物がない。そこに又ファッショの行ひ難い點があるのであります。同時にイタリアやドイツのやうな人物ファッショは非常に弊害が多いのであります。ドイツやイタリアの人物ファッショには必ず秘密政治が付きものであります。従つてスパイが非常に横行してゐ



る。單なる人の一言でもヒットラーの政治に反對の意味があると直に處刑される。この點に於てはイタリーも同じことではありますが、ロシアでも同じことでもあります。中心人物が自分を擁護する爲には、何んなことでも敢てするのであります。そこに於てテロリズムが行はれるのであります。そこは日本の國は有難いものである。天皇陛下中心である以上テロリズムもないのであります。秘密政治もないのであります。然し非常に法規が澤山出来て自由と言ふものが無くなる傾向はあります。さうして、投機思惑など言ふものは衰へる傾向があるのであります。けれども物は高くなります。その高くなるには波があります。高いぞと言ふので急いで買ひます、さうすると高くなる。高くなると一應安くなるものです。これはしまつたと言ふので又急いで賣る。又下る。高いところで買つて安いところで賣る。年中茶ぶ付いて身代を無くしてしまひます。物價は人氣的に來るからして、これは人の逆を行くのがインフレーションの本道であります。今迄は景氣の循環と言つて好景氣の後には不景氣が來たものでありますが、これからは決して景氣は循環致しません、其の代り不景氣のものは益々不景氣に、景氣の良いものは益々發展するのであります。だからして不景氣の部門にあるものは職業の轉換をしなければならぬのであります。眼先のことをいろ／＼申上げてても間違が起るかも知れませんが大體さう言ふ譯で米國か英國で何か大きなことをやつて好景氣でも起さない限り良くならないのであります。さう言ふ譯で世界の經濟は二つに分れて、一つは物の不足で悪性インフレを心配する。一つは生

産過剰で不景氣に悩んでゐるのであります。これが段々進んで行くに遂に大きな戰爭になるのであります。さう言ふやうな譯で、大きな眼で考へますと、日本の經濟狀勢と言ふものは、吾々が未だ經驗しなかつた状態であります。そんなら私は資本主義を否定するかといふに、私は決して之を否定しない。私有權を否定しない。私有權は悪いものではない。金を持つて遊んで居つてはいけない、金を持つて居れば其の程度に於て經濟的義務を盡さなければならぬといふだけであります。人に依つては金を持つて居て仕事の出來ない人があります。それではいけない。そんなら仕事をする者に其の金を渡しなさいと言ふのでいろ／＼の統制を行ひ、税金で取上げられるとか何かの名目で取上げられるのであります。昔は十萬圓で生活出來だが今日では十萬圓では生活出來ないのであります。利息も段々安くなつて來る。斯う言ふ譯で資本主義は從來の營利本意から段々職能本意になつて來る。つまり職能を發揮しなければならぬのであります。從來吾々は金を儲けると喜びますけれども、それには三つのものがあるのであります。一つはマルクスの言ふやうに、勞働者を搾取することであり、この搾取は勞資關係で行はれるのであります。其の次のは資本家同志の間でやる投機思惑、自分の思惑が當つて儲ける事であり、これは勝取であります。もう一つあります。これは搾取でもない。人を欺かして取るものであります。つまり信用を膨脹させて、實際財産でないものを財産である如く見せかけて信用さす。インフレーションが一つの例ですが、さうして金を出させて金利を儲ける。つまり詐取



です。此の搾取と勝取と詐取で儲けたものは、本當に儲けたとは言はれぬ。本當に儲けると言ふことは、事業をする場合に自然を征服してやること、獨創力で以て新しく自然を征服して行くことであります。これが眞の富であります。富は良いことであるが、人の富を取るのに極く巧妙にやるから分らないのであります。富でも正當の富と不當の富とあります。インフレーションに依つて取る不當の富をインプロパティと言ひます。正當の富をプロパティと言ひます。つまりこのインプロパティが多すぎるから戦争が起らうとするのであります。インプロパティでは國の富は少しも出来ない、本當の富を作る爲には獨創力で自然を征服する。鐵がないといつて鐵を作り、石油が足らぬといつて石油を作る。と言ふのであります。こゝに於て、昔福田徳造と言ふ博士は、經濟と言ふものは、人と人との關係であるか人と物との關係であるかと言つて非常に悩んでこれを解決せずに遂に死んでしまつたのであります。私は今日の經濟は人と人との關係ではない人類と自然との關係である。人類が自然を征服する其の過程が經濟である。人と人とのごまかしではいけない。さう言ふ悪い意味の營利主義は今後否定されるべきものである。然し善良なる富は必要である。其の爲に日本國民は大に努力しなければならぬのであります。取止めなく長々と喋りましたがこれで私の講演を終わります。(了)

昭和十三年四月廿五日印刷  
昭和十三年四月三十日發行

非賣品

編輯兼 發行者 伊藤 泰太郎  
岐阜市昭和町一丁目五番地

印刷者 河田 貞次郎  
岐阜市七軒町十二番地

印刷所 西濃印刷株式會社  
岐阜市七軒町十一番地  
岐阜支店

發行所 岐阜商工會議所内  
岐阜經濟會



終

